

普及活動情勢報告（平成30年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

シシトウ3JA合同現地検討会を開催しました！



6月4日に南国市の2本垣根仕立て・低位摘心栽培のほ場でJA十市、JA南国市、JA長岡の3つのシシトウ部会が合同現地検討会を開催し、生産者18名が参加しました。

農業改良普及課からは、低位摘心栽培や整枝方法、蒸発散量に応じたかん水管理についての情報提供を行いました。

生産者からは「6月までこの高さで抑えられているのはすごい！」「自分も低位摘心やってみようかな。」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や部会等を通じて、基本技術について情報提供し、生産安定を支援していきます。

農村女性リーダーの活躍促進に向けて ～「そよかぜウォッチングin香美」～



5月22日、中央東地区農村女性リーダー協議会が研修会「そよかぜウォッチング in 香美」を開催し、18名が参加しました。

今回は、香美地区の農村女性リーダーが事前にコースを検討し、農業改良普及課は、研修先との調整や資料の準備など取り組みへの支援を行いました。まず、「山田分水工発電所」を見学し、水力発電について説明を受けました。女性リーダーは「蓄電された電気はどのようなのか」等の質問やそれぞれの地域での水の悩みについて活発に意見交換を行いました。

その後、「ほっと平山」に移動し、ピザ作りや焼き物体験を行い、交流を深め、有意義な研修となりました。

農業改良普及課は、今後も農村女性リーダーの資質向上に向けた取り組みを支援していきます。

施設カンキツにおけるIPM技術導入の取り組み



香南市の施設カンキツほ場では、近年、ミカンハダニの薬剤抵抗性が発達し、生産者是对応に苦慮しています。

そこで、農業改良普及課は今年度、天敵資材を活用したIPM実証ほを設置し、6月8日にはハウス水晶文旦ほ場で、関係者8名による定期調査を行いました。

現在、天敵は定着し果実外観も良好で、生産者からも「いつもはこの時期の防除に苦労する。現状の品質も問題ない。」と高評価です。

今後も農業改良普及課は、実証ほの調査や結果の周知を通じ、施設カンキツにおけるIPM技術の導入を推進していきます。

農薬使用履歴情報の一元管理に向けた生産者の要望集約



簡便な農薬管理記帳化システムの構築を目指して、5月21日にJA土佐香美管内のニラ生産者からデモ機に対する意見を集約しました。

当日は生産者16名、JA土佐香美、県IoT推進室、環境農業推進課が出席しました。生産者からはデモ機の使い勝手や追加する機能等について、記帳作業の省力化を図りたい、農薬使用回数の事前警告機能追加、複数ほ場の一括管理、パソコンソフトへの対応、施肥管理記帳との連動等の要望が出されました。

農業改良普及課は、システム構築に向けて、IoT推進室と生産現場（生産者・JA）との調整を行っていきます。

JA土佐香美ニンニク部会が次年度の計画を検討



6月20日、JA土佐香美ニンニク部会が野市町で反省会を開き、生産者10名と関係機関9名が出席しました。

反省会では、平成30園芸年度生産及び販売実績を確認した後、農業改良普及課がニンニクの生育相と栽培条件の関連を説明しました。生産者は、品質安定対策について活発に協議し、次作では部会の活動として、施肥管理等を現地試験することが決まりました。

今後、農業改良普及課は部会・関係機関とともに現地試験を実施するなど栽培技術の改善を図り、生産拡大を進めます。

平成30年度はちきん農業大学が開校!!



5月28日、振興センター会議室ではちきん農業大学開講式及び第1回講座を開催し、3名が出席しました。

「高知県農業施策」、「農業者年金」、「熱中症対策の基礎知識」の3講義を実施しました。

農業施策では「産業振興計画の5本柱」について、農業者年金では「農業者年金の税制上のメリット」や「従来の農業者年金との違いについて」、熱中症対策の基礎では「こまめに水分補給を取ること!」、など直ぐに役立つ対策を中心に勉強し、有意義な時間を過ごせたと参加者から声がありました。

農業改良普及課は、計画的に講座を開催し、女性農業者の技術・経営管理力の向上に向けた取り組みを行っています。